

# World Watching 64

ワールド・ウォッチング

## アフリカ随一の資源大国 アンゴラの 復興と港湾



上田 寛

株式会社大本組顧問  
(前 (財)国際臨海開発研究センター常務理事)



### 40年間に及んだ内戦の影響

アンゴラ共和国はアフリカ西海岸中央部に位 (日本の約3.3倍) を有するアフリカ随一の資源大国です。しかしながら、2002年までの30年間 (ポルトガルからの独立戦争を含めれば40年間) を内戦に費やしてきたこともあり、日本人には馴染みの薄い国ではないかと思えます。40年間に及ぶ内戦は交通インフラにも悲惨な状況をもたらしました。道路網の80%、鉄道網の90%が戦争被害により利用できない状況にあります。破壊された道路橋と鉄道橋の数は350に上り、また1,000万個を越すとも言われる地雷の存在は陸上交通の再開に大きな障害になっています。この様に、陸上交通網は殆んど機能していない状態です。幸いにも港湾は直接的な戦争被害は受けなかったため、戦時中も物資の輸送を行ってきましたが、40年間、本格的な改良工事や機材の更新がなされていなかった



劣化が激しい幹線道路 (ルアンダ)

ので、施設の老朽化は著しく港湾の容量不足は深刻な状況です。

### 資源大国の本格的な戦後復興

アンゴラはアフリカ随一といわれる豊富な天然資源に恵まれた資源大国です。世界有数の埋蔵量を誇る原油とダイヤモンドをはじめ豊富な鉱物資源を有するほか、サブサハラにおける水資源の22%がアンゴラにあると言われ、コーヒーや綿花といった農産物の生産もかつては盛んでした。40年間にわたりこれらの資源は眠っていたわけですが、内戦に終止符が打たれいよいよ本格的な戦後復興に取り組む環境が整ってきました。国際機関の援助も内戦中は人道上的支援が中心でしたが、最近の援助は中長期的な本格的経済援助に方向変換されてきています。

### アンゴラの港湾の現況

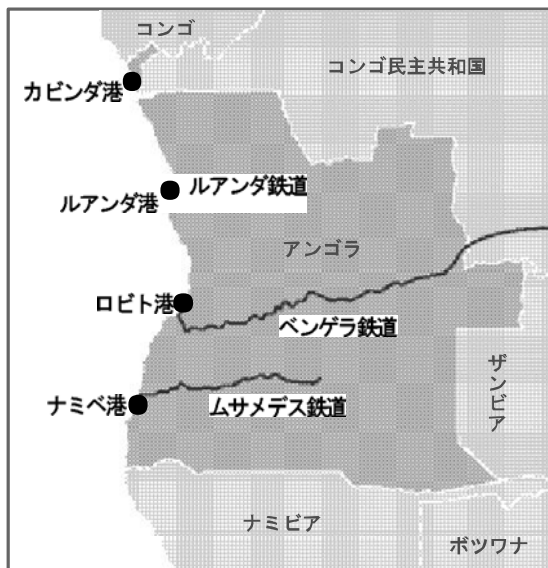
アンゴラの海岸線は南北に1,600kmの延長を有しており、その海岸線に4つの主要港湾 (北からカビンダ港、ルアンダ港、ロビト港、ナミベ港) がほぼ等間隔に位置しています。特にルアンダ港とロビト港は、静穏で大水深が確保された天然の良港です。これらの港湾においては極度に老朽化した施設の復旧が大きな課題となっています。岸壁エプロン部はひび割れが入り、荷役機械の安全運用に支障を及ぼす程です。岸壁クレーンは耐用年数を優に過ぎた旧式機械

(1938年製もある)が未だ使用されています。内戦後の経済復興を受け貨物も増加傾向にありますが、国家予算の制約から各港湾の復旧は遅々として進んでいません。アンゴラ最大の港湾であるルアンダ港はこの解決策として民営化の導入を図り、マースク・シーランドをはじめとするコンセッショネアーが施設の維持・改良を行うことになっていますが、他の港湾は現時点では施設復旧の目途がついていません。陸域の交通網が寸断されている現状では国民の生活物資の輸送は海上輸送に大きく依存しており、港湾施設のリハビリはアンゴラ政府にとって喫緊の課題となっています。

### 港湾に期待される役割

この様に港湾施設の老朽化対策は大きな課題になっている一方で今後、本格的な経済復興を迎えるにあたってアンゴラの港湾は大きな役割を果たすことが期待されています。特に、アンゴラの主要港湾はカビンダ港を除いて全て鉄道をアクセスに持ち広大な背後圏と結ばれていることが大きな特長で、背後圏経済の本格的な復興を支えるゲートウェイとしての機能が期待されています。ルアンダ港は424kmのルアンダ鉄道、ロビト港は1,366kmのベンゲラ鉄道(これは国内鉄道距離で実際は国境を越えてアフリカ東海岸まで繋がっている)、さらにナミベ港は906kmのムサメデス鉄道により天然資源に恵まれた広大な背後圏と結ばれているのです。

世界銀行は現在、ルアンダ州と内陸の5州を対象に道路網のリハビリと道路橋、鉄道橋の復



急増するコンテナへの対応が求められるルアンダ港



老朽化し、早急のリハビリが必要な岸壁(ナミベ港)

旧を進めつつあります。また、アンゴラ政府は中国の借款を用いてルアンダ鉄道、ベンゲラ鉄道、ムサメデス鉄道の復旧工事を重点的に進めているところです。これらの内陸輸送網の復旧が進むと背後圏のゲートウェイとなる3港湾を通じて膨大な量の貨物が輸送されることは前述の天然資源のポテンシャルを考慮しただけでも明らかです。特にベンゲラ鉄道は港湾を持たないコンゴやザンビアの貨物をロビト港に結びつけており、同港はアフリカ西海岸のハブ港湾となるポテンシャルを有しています。アンゴラの復興・経済発展に向けた港湾開発の方向性については、現在OCDIにおいて実施中のJICA開発調査の中で検討されているところです。今後政府開発援助と民間投資が効果的に進められれば10~15年後、アンゴラは南アフリカと肩を並べるサブサハラの雄に成長するものと期待しています。